

## 安堵町

～小さくても キラリ光る 活力あふれるまち・あんど～

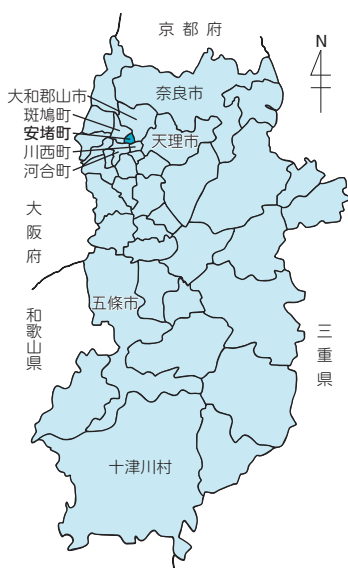
安堵町は奈良盆地の北西部に位置し、大阪中心部まで約 30 分の恵まれた立地にある田園の町です。町内にはかつて聖徳太子が斑鳩宮と飛鳥を行き来したとされる古道「太子道」が通っています。また水運の要衝として、豊かな歴史・文化が古より集積している町です。近代陶芸の巨匠・人間国宝第 1 号である富本憲吉をはじめ、奈良県再設置の立役者である今村勤三、予防医学の基盤を打ちたてた今村荒男など、多くの偉人を輩出しています。

### I 概要

#### 1. 地理

安堵町は面積 4.31 平方キロメートルと小さな町で、古代から現在に至るまで、奈良盆地の中央に位置する恵まれた立地を生かして発展してきた。大和川と富雄川の合流地点にあり、西は斑鳩町、北東は大和郡山市、南は河合町と川西町に囲まれており、人口 7,225 人（県内 39 市町村中 23 位）、世帯数 3,068 世帯（同 23 位）、面積 4.31km<sup>2</sup>（同 38 位）の町である（総務省「国勢調査 人口等基本集計」（2020 年））。町内に鉄道駅はないものの、隣接する斑鳩町の JR 法隆寺駅と大和郡山市の近鉄平端駅の間は、コミュニティバスを運行させており、奈良交通路線バスも JR 法隆寺駅と町内住宅地との間を運行している。また、西名阪自動車道が町の中央を東西に走っており、町を挟むように法隆寺 IC と大和まほろばスマート IC があるため、車での移動も便利で、大阪中心部まで約 30 分という立地から企業誘致も進んでいる。

安堵町の位置図



#### 2. 産業構造

従業地による就業者人口（15 歳以上）の産業別割合を見ると、第 1 次産業が 2.4%、第 2 次産業が 31.2%、第 3 次産業が 66.5%と、奈良県全体（順に 2.4%、22.1%、75.5%）と比べて第 1 次産業、第 2 次産業のウエイトが高い（総務省「国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計」（2020 年））。

民営事業所数は 194 か所（県内 30 位）で従業者数は 2,218 人（同 25 位）（総務省・経済産業省「経済センサス活動調査（速報）」（2021 年））であり、大規模な工場や倉庫が立地し、地域の雇用の場となっている。

### II まちづくりの方針

#### 1. 総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略

安堵町は令和 4 年 3 月に総合戦略の 5 つの政策目標と 19 項目の基本施策を策定し、「第 5 次安堵町総合計画、第 2 期安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略」をスタートさせた。

町長の西本安博氏が平成 22 年 8 月から 12 年という経験を活かし実現を目指し取り組んでいる。

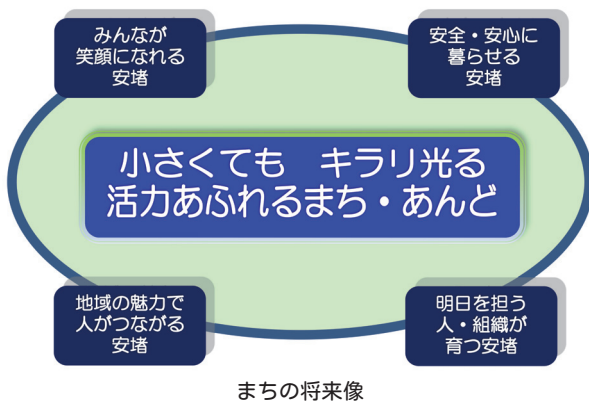
#### 【5 つの政策目標】

- ①豊かな子育て、学び、生きがいを育む
- ②いきいきと支えあって暮らす
- ③地域産業を継承・発展させる
- ④快適な暮らしを支える
- ⑤地域課題をみんなで解決する

安堵町は総合戦略において、人口減少、少子高齢化時代が本格化する中、子どもたちが元気に育ち、地域で支え合い、みんなが健康ではつらつと働き、年をとっても笑顔あふれる安心して暮らせるまちづくりを継承していくことの必要性について重視している。住民一人ひとりが、互いに協力しあい、すてきなまちを創っていこうとする地域力が自慢である。

## 2. まちの将来像

安堵町では「人」とのつながりを大切にし、「小さくても キラリ光る 活力あふれるまち・あんど」をまちの将来像に掲げて創意工夫しながら、みんなで力をあわせてコンパクトで住み良い持続可能なまちの実現を目指している。



まちの将来像

## 3. “キラリ光る” 交流のまちづくり

### (1) 魅力づくりの取り組み

安堵町では交流のまちづくりを実現させるために様々な取り組みを実現させてきた。その特徴と主な取り組みについて紹介する。

#### 【教育・子育て支援】

人口減少に歯止めをかけるため、子育て世帯が

#### 【上記以外の取り組み】

- ・小学校大規模改修・小中学校のエアコン完備
- ・学校給食の完全実施
- ・子ども医療助成を中学生まで引き上げ
- ・タブレットを活用した授業等を実施
- ・学童保育の充実
- ・一時預かり保育室と子育て広場の開設

住みやすいまちづくりに重点を置き、認定こども園を整備した。

#### 【生活・安全・安心】

安堵町は大規模災害発生に備え、より万全な対応ができるよう、民間事業者等と災害時応援協定等を多数締結している。また、令和2年10月には愛知県の幸田町と災害時における相互応援協定を締結し、応急対策および復旧対策に係る災害時の相互応援の体制を整備した。両町が各地域で遊水地事業を進める中で交流が生まれ、締結に至ったもので安堵町が町外の自治体と災害協定を結ぶのは初めての取り組みである。

#### 【上記以外の取り組み】

- ・えーまち安堵安心メールの配信サービス（まちの防犯防災・催し情報の発信）
- ・防災等に関し、町内一斉放送で使用する全方位防災スピーカー（エルラド）を設置
- ・コミュニティバスの運行（近鉄平端駅～JR 法隆寺駅）
- ・タクシー運賃助成事業
- ・斎場使用料の助成制度
- ・庁舎ギャラリー開設

#### 【インフラ整備】

災害対策として「水つきどころ」と言われている窪田遊水地の整備を進めている。大和川の流れを守るために10年かけて計画してきた工事も始まり、完成後は進入道路として道路整備も進む予定である。

#### 【上記以外の取り組み】

- ・道路、橋梁等の長寿命化
- ・国土交通省の直轄事業で浸水等を防ぐための治水対策を行う大和川水系総合整備事業への支援、協力

#### 【産業】

大和まほろばスマートICの使用開始以降、同ICからのアクセスが良好な同町では、企業立地

の魅力が高まった。企業誘致で地元の雇用を確保する取り組みは着実に前進している。

## 【上記以外の取り組み】

- ・家賃補助制度
- ・大型開発事業による企業誘致
- ・町指定の文化財の保存・継承
- ・富本憲吉生家を宿泊施設に再生

## (2) これからの取り組み

安堵町で今後実施予定の施策を紹介する。

### <実施予定の主な施策>

#### 【教育・子育て支援】

- ・妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援

#### 【生活・安全・安心】

- ・感染症対策関連事業に係る役場組織の危機管理体制の強化
- ・災害対策で地区別に自主防災組織の確立

#### 【インフラ整備】

- ・災害対策にかかる遊水地事業への支援、協力
- ・平常時の遊水地利活用、工事用道路の県道移管
- ・ごみ処理広域事業の推進と同事業に関連する中継施設の建設及び事業の実施

#### 【産業】

- ・大型開発による企業立地への支援

## Ⅲ 安堵町の歴史・偉人・観光

### 1. 歴史

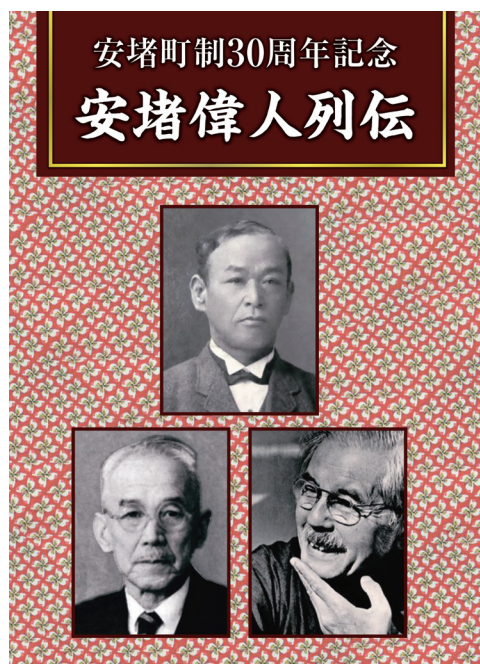
安堵町はかつて聖徳太子が飛鳥と法隆寺を行き来したとされる古道「太子道」が通り、今もその名残を残している。

町の南に大和川、西に富雄川、中央に岡崎川が流れ、難波の津と飛鳥を結ぶ水運の要衝でもあった。

### 2. 偉人

同町では近代において偉人を多く輩出している。安堵町が輩出した偉人の中から今村勤三、今村荒男、富本憲吉の3名を紹介する。なお、2016年4

月安堵町制30周年を記念して発刊された「安堵偉人列伝」が町のホームページに掲載されているので、そちらもご覧いただきたい。



安堵町 安堵偉人列伝

#### ・今村勤三（1851年～1924年）

今村勤三は安堵が生んだ傑出した政治家である。奈良県独立の立役者で明治14年に大和国全域を管轄する奈良県が河内国・和泉国を管轄する堺県に編入され、再び6年後の明治20年に奈良県として独立した際に不撓不屈の精神で奈良県再設置の運動に尽力し、実現させた立役者である。

#### ・今村荒男（1887年～1967年）

今村荒男は天賦の才で医学をけん引し、BCG予防接種を確立した医者である。また、大阪大学第5代総長として法文学部（旧制）の新設に尽力し、同大学の総合大学としての礎を築いた。また、奈良県立医学専門学校（現奈良県立医科大学）の初代校長も務めた。

#### ・富本憲吉（1886年～1963年）

近代陶芸の巨匠であり、重要無形文化財「色絵磁器」保持者に認定され、最初の人間国宝に選出された。陶磁器の研究をするため信楽、瀬戸など各地の窯場や朝鮮半島にも足を運び白磁しょうせいの焼成に成功する。また、色絵に加えて金銀を同時に焼



き付けるといふ技法・金銀彩を完成させ、四弁花模様や羊歯模様などによる独自の作陶様式を確立した。東京美術学校（現東京芸術大学）や京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）の教授も務めた。

### 3. 観光

#### ①観光の安堵町文化観光館「四弁花」

2019年8月に誕生した文化観光館で、名称は富本憲吉の作品に用いられた四弁花模様由来している。富本憲吉の生家前に位置し、1階はギャラリー兼休憩スペース、2階は研修室として利用することから安堵町の新しい観光発信拠点としての役割が期待される。



文化観光館 四弁花

#### ②極楽寺

聖徳太子の創建と伝えられる当寺には、ご本尊の阿弥陀如来坐像（国の重要文化財）、極楽浄土で瞑想する姿を表す「定印」を結んでいる高さ4mの阿弥陀如来坐像（広島大仏）や600巻の般若経が安置されている。

広島大仏は山形県で建立され、廃仏毀釈から逃れるため一度解体され、後に広島で作直された



広島大仏

ためそのように呼ばれている。戦後、広島市で原爆犠牲者を弔うために原爆ドーム近くの寺に安置されていたがその後、行方が分からなくなっていた。2011年に極楽寺の住職が阿弥陀如来坐像と広島大仏の特徴が似ていることから専門家の鑑定も得て判明した。今年の7月には67年ぶりに広島へ「里帰り」し、原爆ドーム近くの複合施設おりづるタワーで一般公開された。

#### ③聖徳太子の案山子像

聖徳太子をモチーフにした高さ約12mの案山子であり、飛鳥時代に聖徳太子が推古天皇の摂政として、斑鳩宮（現在の法隆寺）から飛鳥（現在の明日香村）までを行き来したとされる「太子道」沿いにあり、法隆寺の方角（北西）を向いている。



オブジェ案山子像『聖徳太子』

西本安博町長は、「安堵町は近代の政治、医学、陶芸等の分野で多くの偉人を輩出してきた。偉人の功績を称えとともに、その志をまちづくりに活かし、誇りと愛着を持って、誰もが住みやすく、活気あふれるまちにしたい。」と語る。

今後、こうした偉人たちの足跡を辿るといったストーリー性のある企画により観光客を誘致することや、高速道路ICに近い好立地を活かした企業立地により交流人口を増やし、賑わいを創出してまちの活性化につなげていくことが期待される。

（林 大祐）